

# 佐世保市立東明中学校



〒859-3244  
佐世保市江上町814番地  
校長 内川 尚浩  
生徒数 199名 (R4,5,1 現在)  
学級数 9学級



**本校の事業テーマ**  
**「明るさ・素直さ・たくましさ」いっぱいの**  
**活気あふれる学校教育の創造**

## 目的

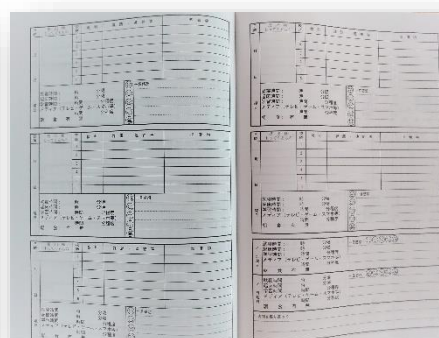
- ①学校教育目標の具現化を図る。
- ②学校経営および経営方針の重点努力目標を踏まえた教育活動とする。
- ③体験活動を推進し、開かれた学校・特色ある学校づくりを目指す。

## 具体的な実践内容

### 1 生徒に関わる実践内容

#### ① オリジナル生活ノート「学問のススメ」の作成・活用

本年度も、学力向上のために、オリジナルノート「学問のススメ」を作成した。表紙には、本校のイメージキャラクター「ひま丸」を配置し、本校のオリジナル性を表現している。内容は、学校教育目標、家庭学習のすすめ方、各教科の学習ポイント、長期休業中の計画、生徒心得を記載している。毎日、この生活ノートに教科連絡や日々の生活の様子を記録し、担任と生徒、学校と家庭の連絡帳としても活用している。このことにより、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の定着を図り、学力向上につなげている。



## ② オリジナルのぼり旗・生徒の活躍横断幕の製作

学校のシンボルとして「のぼり旗」を製作している。生徒を元気づけるように迎え、本校の雰囲気をも明るくしている。本校の特色として定着している。

また、生徒が各種大会で上位入賞を果たし、県大会、九州大会、全国大会へ進む活躍を示した横断幕を製作した。生徒の活躍をより多くの人に知ってもらうことで、生徒の自信となり自己肯定感の向上につなげた。

このような取組を継続することによって、全校生徒の士気が高まり、生徒一人一人が、学校に愛着を感じ、愛校心をより一層高めている。



校門の「のぼり旗」



生徒の活躍横断幕

## ③ 思春期教室（3学年対象）7月実施

長崎県看護協会 助産師 山口 沙織様を招聘し、思春期教室を実施した。成長期における男女の違いなど、生徒自身にわかりやすく話を頂いた。



## ④ 職場体験学習

今年度は、23事業所にご協力いただき、実際の職場の雰囲気を体験することができた。

生徒たちは、事前に電話で自己紹介やあいさつを行い、打合せをして当日を迎えた。特に初日は、初めて事業所に赴き緊張した表情で、自己紹介を行い説明を聞きながら慣れない職場の仕事を体験できた。仕事の準備や作業を通じて、普段では見ることのできない苦労ややりがいを感じ取ることができ、少しずつであるが、要領もわかり自ら作業ができるようになり、生徒達も学校では学ぶことができない今回の貴重な体験を通じてキャリア教育の一環である勤労観や職業観を身に付けることができた。



⑤ 車イスバスケットチーム来校 全学年対象 12月15日実施

人権集会の一環として、みんなが過ごしやすい環境を自分たちで築く感性と実践力を養うことを目的に「パラスポーツの世界を知ろう」をテーマに車イスバスケットボール選手をお招きしての講話・体験活動を実施した。人権について考え、社会生活におけるさまざまな人権問題を自らの問題と重ねて学び合う活動を通して、みんなが過ごしやすい環境を自分たちで築く感性と実践力を養うことができ、大変有意義なものとなった。



⑥ 環境美化活動 全学年対象 通年

各クラスの花壇用に花の苗を購入し、植え付けから水やりまでを行わせている。各クラス同士で競わせ整備させているが、休みの日も登校して水やりをする生徒もおり、責任感や協力性、自然愛護について、生徒の資質を向上させる効果があった。



## 2 学校運営に関わる実践内容

① 「学びの共同体」による授業研究会 教職員対象 7月4日、1月18日実施

「学びの共同体」による授業研究（校内研修）

（令和5年7月4日、令和6年1月18日・東明中学校・教職員対象）

「九州学びの会」スーパーバイザー藤木文博先生を講師として迎え、「学びの共同体」に関する研修を実施した。藤木先生には終日在校して頂き、授業参観、授業研究における講話をいただいた。また授業における課題や生徒の意欲を高める授業の工夫などアドバイスを受け、教職員の授業改善の意識が高まり、授業形態や授業の進め方に変容が見られた。

昨年度からの継続した研修であるが、今後も授業改善についてさらに研修を進めていく予定である。



### 3 保護者や地域にかかわる実践内容

#### ① メディア講習会(家庭教育講座) 全学年・保護者対象 6月30日実施

県のメディア安全指導員の立岡みや子氏による講演会を実施した。スマートフォンやライン使用の落とし穴などについて理解を深めることができた。保護者に対してもお話いただき、子どもの指導についても効果的であった。



#### ② 土曜日授業(かるがもウォーク) 全学年・保護者対象 10月29日実施

例年、健全育成会の協力を得て、育友会主催で実施していた「かるがもウォーク」(ウォークラリー)を土曜授業として開催した。今年度は、コロナ感染状況も緩和し、多くの保護者の協力のもと、実施することができた。好天に恵まれ、親子のつながりや地域の自然の美しさを堪能できた。



#### ③ 親子美化作業の実施

雨天になり、校内での親子美化作業を実施した。約1時間の美化作業となったが、普段使用している教室や体育館、トイレを中心に各学年で分担し、教室廊下の窓ふき、手洗い場のカビ落としなど生徒、保護者、教職員で協力して取り組むことができた。親子間のコミュニケーションをとることもでき、有意義な美化作業となった。



## 成果と課題

### 成 果

- ・各取組を通して生徒たちが生き生きと活動し、たくましく成長したことがうかがえる。「学問のススメ」の作成により、学力向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができた。また、オリジナルのぼり旗や生徒の活躍横断幕の制作は、生徒たちの所属感、愛校心をより一層高め、向上させることができた。
- ・外部講師を招いた取組においては、生徒が興味を持って真剣に話を聞き、成果を上げることができた。実施後の感想文を読めると、それぞれのテーマについて深く考えていることがわかる。
- ・人権集会では、車いすバスケットボール選手をお招きしての講話・体験活動を実施した。人権について考え、社会生活におけるさまざまな人権問題を自らの問題と重ねて学び合う活動を通して、みんなが過ごしやすい環境を自分たちで築く感性と実践力を養うことができ、大変有意義なものとなった。生徒は、これからの学校生活における相手への思いやりや相手を認めることの大切さがわかる機会となった。
- ・「環境美化作業」などの取組では、生徒たちの環境改善に対する意識が高まり、生徒たちの手で校内美化を実感することができた。

この「特色ある学校づくり」のような教育活動を通して、普段の授業では学べない勤労観、職業観、将来像を実体験によって学ばせたい。

今後とも、このような体験を重視しながら本校の教育活動を推進していきたい。

### 課 題

- ・時数も限られている中であるので、3年間の系統を考え、無理や無駄のない計画を立案、実行していく。
- ・特に、総合的な学習の時間を通して、さらに「ふるさと教育」を充実させていきたい。特に東明中校区の地場産業等、地域の特色を生かした取組（みかん学習、歴史学習（無線塔等）、福祉教育等）について学びを深めていく。
- ・家庭学習の習慣化を目指した生徒の学習意欲の向上を図る。
- ・地域や保護者の学校教育へのさらなる信頼を深めるために連携を密にしていく。